

平成28年第6回田原市教育委員会定例会会議録

1 開会 平成28年6月21日 午前10時00分

2 閉会 平成28年6月21日 午前11時35分

3 会議に出席した委員

花井 隆教育長、横田 威委員、金原真人委員、
山本明子委員、土井真紀江委員

4 会議に欠席した委員

なし

5 会議に出席した職員

教育部長

大根義久

教育部次長兼中央図書館長

豊田高広

教育総務課長

三竹雅雄

学校教育課長

鈴木欽也

生涯学習課長

富田 成

スポーツ課長

大羽耕一

文化財課長

鈴木利昌

教育総務課主任

宮嶋綾子

6 議事日程

別紙のとおり

田原市教育委員会第6回定例会議事日程

日 時 平成28年6月21日(火)
午前10時00分
場 所 北庁舎2階 200会議室

- 1 会議録署名者の指名
- 2 教育長報告事項
- 3 報告事項
 - (1) 教育委員連絡報告事項
 - (2) 学校再編について
 - (3) 田原市議会第2回定例会一般質問について
- 4 その他

教育長

開 会 午前10時00分

おはようございます。

御多用のところ御出席くださいます、ありがとうございます。

ただいまの出席者は5名であります。

定足数に達していますので、平成28年田原市教育委員会第6回定例会は成立いたしました。

これより開会いたします。

それでは、会議規則第13条第2項の規定により、会議録署名者の指名をさせていただきます。

今回の署名者として、金原委員と山本委員の御兩名を指名させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議題に先立ち、教育長報告事項をお願いいたします。

教育長日誌をごらんください。

5月21日、小学校陸上大会。

5月24日、泉中学校再編検討委員会、5月25日、伊良湖岬中学校統合検討委員会がそれぞれありました。また後で報告がありますので、そちらでお願いしたいと思います。

5月26日、赤羽根中学校、5月27日、田原中学校で体育大会がありました。5月28日には市内18小学校中11校で運動会がありました。春の運動会が大勢を占めるようになってきております。

学校訪問が亀山小学校、福江小学校を皮切りに5月30日から始まりました。

6月2日、ギブソン郡高校生のウェルカムパーティーがありました。中学生5人、引率3人の方が、それぞれ田原市内の中学校に分かれてホームステイしながら日本の生活を約1週間体験して帰国しました。

6月8日、福江中学校の学校見学会。泉地域と伊良湖岬地域について、保育園、小学校、中学校の保護者も含めて案内を出させていただいて実施しました。

6月13日、14日、田原市議会本会議の一般質問がありました。後ほど報告がありますので、教師の多忙化や学習環境、給食の現状について質問がありました。

6月15日、若戸小で指導訪問がありました。

本日の教育委員会定例会の後、要請訪問ということで、赤羽根小学校にまいります。今週は文教厚生委員会、予算決算委員会など議会関係の会議がありまして、23日が本会議最終日となります。

6月2日にはバドミントンの小学生全国大会出場で、また、6月23日には、小学校ソフトテニス男子ペアが教育長訪問として報告に来てくれました。

それから、後は学校訪問が続きます、また委員さんたちにもお願いいたします。

横田委員

7月1日に、田原市中高一貫教育推進委員会がありました。これは愛知県高等学校教育課、義務教育課、東三河教育事務所等も交えて、福江高校、福江中学校、市の教育委員会が入って話し合いを進めていきます。

7月2日からは中学校の総合体育大会が始まります。

私からは以上です。

御質問等ありましたら、お願いいたします。

ないようですので、次に移ります。

本日は議題がございませんので、報告事項に入りたいと思います。

教育委員の皆様から報告をお願いします。横田委員。

私は、5月21日、小学校陸上大会へ参加させていただきました。

新記録が出て、平成5年に出た記録を塗りかえたということでした。

5月25日、東三河委員長・教育長会議に参加しました。

また、こうした会議で田原の関係など、県の指定を受けたとか、皆さんに報告したほうがいいことがあればお知らせします。

5月28日、運動会で野田小学校へ行きました。今まで中学校と一緒にやっていたのが、中学生がいなくなった分だけ子どもが一生懸命に動いていました。

6月2日、学校訪問で、南部小学校と清田小学校へ行きました。それから、ギブソン郡の方のウェルカムパーティーも参加しました。

6月9日、一斉授業研究会の道徳の授業を見に行きました。これは自由参加なのですが、道徳が教科になってくるので、どう評価をするのか、どう話し合いがされるのかなと思いつつ行ったのですが、協議会に出るのは失礼かなと思って授業だけ見て、担当者と少し廊下で話をしました。来年から道徳が教科になるので、そういう話し合いも、こういう場でしておいたほうが良いというようには担当者に伝えておきました。

6月14日、市議会の一般質問2日目の午前中、中神議員の食育の推進について、赤尾議員のサーフタウン構想について傍聴させていただきました。

以上です。

山本委員。

教育長

山本委員

私は、5月27日、田原中学校の体育大会に行かせていただきました。

午前中は見させていただきました。ちょうど涼しかったものですから、熱中症などの心配もなく過ごせたようです。

それから、5月28日の小学校の運動会では、赤羽根小学校と若戸小学校へ行かせていただきました。赤羽根小学校、若戸小学校も初めてでおもしろかったです。若戸小学校では、地域のいろいろな人が、入れかわり立ちかわりで行事に参加していて、私も参戦させていただきました。

教育長
金原委員

5月30日、学校訪問で亀山小学校と福江小学校に行きました。
亀山小学校は結構人数が少なく、特別支援学級の子にも一生懸命注意を注いでいるというのは感じてきました。

午後、福江小学校へ行きました。やはり学校によって先生の雰囲気
が全然違って、四役だけだったのですけれども、明るくて、校長先生
を初め、すごく統率力がある気がしました。とてもいい授業だったし、
やはり学校の現場を見ると、学校によって違うんだなとすごく感じま
した。

6月2日、ギブソン郡のウェルカムパーティーに出席しました。日
本の中学生と、向こうの高校生と、やはり体格もすごく違うのですけ
れども、アメリカの子はすごく大きくて、大人でした。日本の中学生
もみんな一生懸命に英語で自己紹介もできて、いい感じで、楽しませ
ていただきました。

以上です。

金原委員。

5月26日、赤羽根中学校の体育大会に出席させていただきました。

5月28日、小学校の運動会を、午前中、清田小、午後、泉小中学校
の合同運動会に参加させていただきました。

清田小は相変わらず小ぢんまりとした、いい運動会で、泉は地域を
挙げての小中の大会ですので、半分以上の地域の方々の援助で運動会
を運営していました。

教育長
土井委員

土井委員。

5月28日、衣笠小学校の運動会に参加させていただきました。

初めて自分の地区ではない学校の運動会を見させていただいて、や
はり、その土地柄の特色とか雰囲気とか、あと子どもたちの頑張りとか、
いろいろなことを見させていただきました。一番よかったなと思う
のが、今まで見たことがない組体操を見ることができたことです。い
ろいろなところで今、組体操を廃止するという話があったのですけれ
ども、高さはそれほど問題もなく、やはり失敗してしまったり、転ん
で落ちてしまうところもところどころあったのですけれども、みんな
で一生懸命やって最後にできたという団結力というか、達成感が味わ
えて、危険を伴うと言いついたら切りがなくなってしまうけれども、
やはり、ある程度、子どもたちがこういう経験をして、できたときの
達成感や喜びを味わえるのはいいなと思って、このまま続けていた
だけならやってもらいたいなと感じました。

以上です。

教育長

結構、ことしの春は、秋から春に運動会の日程が引っ越してきた学
校が幾つかあったように思います。野田小も秋から春に来ましたね。

5月28日、大草小学校の運動会へ行ったとき、ティーズを呼んでぜ
ひ運動会の種目の中で相撲の中継をしてほしいと言われました。なる

べく続けてほしいですね。

子どもたちみんなに四股名をつけまして、行司が校長先生で、物言いとかも言っていました。

審判長が市民館長で、行司差し違えとか、いろいろおもしろく真剣にやっていたので非常に盛り上がったなと思います。大草小しかやっていないのですけれども、運動会で30分ぐらいの種目になっています。

5月28日の午前中、神戸小の運動会に行ったので、午後からのソーラン節が見られませんでした。神戸小と大草小と同じ日だったので、また来年考えたいなと思いました。

以上で、報告事項を終わりたいと思います。

それでは次に、教育委員会からの報告ということで、まずは学校再編について、お願いします。

では、私からお願いいたします。

教育長の報告事項を1枚めくっていただきまして、児童生徒数の見込みという資料からお願いいたします。

平成28年4月1日現在の住民基本台帳の数字で出しておりますので、実際の学校の人数とは若干違っております。これは平成28年度から平成34年度までの学校ごとの見込みの人数が出ております。

小学校全体ですと134人減っています。中学校でも137名ほど減っています。全体として、減少傾向であることがわかります。ふえるところもあれば、減りが大きいところもあります。

泉小学校も164人から来年度は155人になって、若干、減少傾向です。

1枚めくっていただきますと、小学生と中学生の見込み数が出ておりまして、これは0歳児から小学6年生まで、中学校ですと、0歳児から中学3年生までの今の子ども的人数が出ております。

中学校の生徒数見込みを見ていただきますと、伊良湖岬中学校のここの0歳児が23人、泉中学校で18人ということで、0歳児から今の小学校6年生ぐらいまで20人ぐらいで行くのかなと見られます。

泉中学校も、ここの0歳児は18人で、この辺が続いていくのかなと思っております。

赤羽根中学校ですと、ここの0歳児が40人ということで、1歳児も少しふえております。

一方、福江中学校は少し減ってきています。

そういうこともございまして学校再編をやっているわけですが、泉中学校の再編検討委員会と伊良湖岬中学校統合検討委員会を、ここの5月24日と25日に行いました。

次に、泉中学校の再編検討委員会についてです。これは今年度新たに再編検討委員会のメンバーになっていただいた方々です。

前校区会長や、江比間の前自治会長に入っていたというように、前PTA会長に入っていて、総勢25名にふえており

ます。

平成28年度第1回目の会合を行いまして、委員長は山内コミュニティ協議会長で、副委員長は江比間の自治会長になっていただきました。

続いて、伊良湖岬中学校統合検討委員会を5月25日に開催しました。こちらで校区会長の交替があったところは、前任の方に残っていただきました。和地、堀切、伊良湖の自治会長にも1人ずつ残っていただきまして、前PTA会長にも残っていただきました。総勢29名で今年度第1回目の検討委員会を行いまして、委員長には、引き続き伊良湖前コミュニティ協議会長の小久保さん、副会長も、同じく和地のコミュニティ協議会長の河合会長をお願いしております。

次のページが、そのときの資料でございます。

伊良湖岬中学校及び泉中学校の再編についてということで、以前にも報告させていただいたものです。統合先の決定時期の変更ということで、変更後、平成28年度中の早い時期に統合先と統合時期を決定するというところを、会議のときに報告して、説明させていただきました。

今後のスケジュールにつきましては、4月22日に、関係校区総代、6小中学校長への説明会、再編検討委員会と統合検討委員会を、5月24日、25日で行うこと、6月8日に福江中学校の学校見学会を行い、6月24日には赤羽根中学校で学校見学会を行う予定です。

7月下旬、平成28年度第2回検討委員会を行う予定ですが、そこで方向性、方針を出していきたいと考えております。

7月13日には、教育委員会と総合教育会議を開催いたしまして、そこで、伊良湖岬中学校と泉中学校の統合先、統合時期の考え方の案を決めていきたいなと思っております。

その検討委員会の後、8月になるかと思いますが、伊良湖岬中学校、泉中学校、両校区で、意見交換会を行いたいと思っております。それにつきましては、教育委員会が主催というよりも、校区の検討委員会が主導で会合を持っていただければと考えております。

意見交換会の後、9月には、平成28年度第3回目の検討委員会をそれぞれ行っていただきまして、そこで校区の皆さんの意見を聞いて、その後、会としての考え方をまとめていただければと思っております。

それを受けて9月の教育委員会で、最終的に統合先、統合時期を決めていくという予定で考えておりますので、よろしく申し上げます。

10月以降、意見等がまとまったら、今度は統合準備委員会を発足して、統合準備を進めていく予定となっております。

次のページが学校見学会への案内文書でございます。保育園と小学校と中学校の保護者の皆さんへ案内を出しました。それぞれ両校の検討委員にも来ていただきました。

6月8日の福江中学校では、最初に授業参観、その後学校の概要説明、部活動の参観を行いまして、総勢67人に参加していただきました。

伊良湖岬地域が44人、泉地域が23人で、委員の方も結構、二十二、三人、来ていただいております。

見学会の中で、学校の先生方が説明していただいたので、参加された方々は、「いい学校だね」というようなこと、「子どもも元気にやっている」というようなコメントがアンケート結果にありました。

統合先、統合時期につきましても書いてもらっておりますけれども、その中でも、「1年ぐらいおくらせたほうがいい」というようなこと、「福江中学校でもいい」というようなこと、あと、やはり津波、地震関係のことで意見を書いていらっしゃる方も見えました。

この6月24日にも、赤羽根中学校で学校見学会を行います。同じように、授業参観をした後、学校の概要を校長先生にいただきまして、授業参観も先生方についていただいて、教室を見ていく予定です。

部活動につきましては、それぞれ自由に見ていただくというような形で行っております。

赤羽根中学校の学校見学会でも、アンケートをお願いしまして、保護者の方からの意見も見て、今後の検討委員会などで報告しながらまとめていくのかなと考えております。

次に、泉中学校と伊良湖岬中学校の検討委員会のたより（第4号）です。

後ろのページを見ていただきますと、再編検討委員会での主な意見というようなことが載っております。

「主役は子ども。子どもにも地域性があるので、なじめない子も出てくる。できるだけ事前に交流したほうがいい」というような御意見。あと、泉小学校が行ったアンケートもありますけれども、こちらでも海拔が高いという御意見もありました。

あと、統合してスクールバスとか、そういったこと、部活動終了後、夏休みの対応だとか、やはり具体的なことが気になる方が結構いらっしゃいまして、スクールバスのことについての話も出ております。

あと、「泉小学校のPTAが実施したアンケート結果を最大限に評価して、この意見を酌んで早々に結論を出す時期ではないか」というようなこと。「安心して学校に行ける状態にしてほしい」というようなことですか、あと「野田中学校が田原中学校に行った事例がありますので、子どもたちの様子はどうか」という質問もありました。野田中学校の子については、学校生活は順調にやっているということですが、多少バスでおくれもありましたし、そのようなことを報告させていただいております。

学校の先生も、そういったことがありますので、いろいろ注意を払っていると説明させていただいております。

あと、伊良湖岬中学校の検討委員会だよりですけれども、内容とすると同じようなことで、経緯を説明させていただいて、今後のスケジ

ルールも説明させていただきました。

あと、伊良湖岬中学校の後ろにも、主な質疑ですとか意見が書いてあります。

やはり、「自分の子どもは、今の予定だと中3で統合にあたってしまう。統合するかしないかわからない状態で過ごしていくよりも、決定して確実に方向性を出してほしい」、「子どもたちはすぐに打ち解けると思う」などです。

また、赤羽根校区としては統合を歓迎しているということも、こちらから伊良湖岬地域の方へ報告させていただいております。

中には、「中学校入学と同時期にまとめて行くのではなくて、中学校に入学するときから1学年ずつ統合したらどうか」ということをおっしゃった方もおりますけれども、やはり皆さん、みんな一緒に行ったほうが良いと考えております。

「部活動も継続できるのか」ということも心配されておられました。

あと、ここでもやはり、伊良湖岬小学校のPTAが実施されました、保護者と小学4年生、5年生、6年生を対象にしたアンケート結果、統合先につきましては福江中学校が多かったのですけれども、統合はおくませたほうが良いというのが6割強いるので、そちらのアンケート結果を尊重していったらどうかという意見がありました。

あと、教育長としても、「これから統合時期の案を示していきたい」とコメントしております。7月の統合先、統合時期の方針に向けて、これから進めていきたいと思っておりますので、お願いいたします。

私からは以上です。

教育長

報告をいただきました。

では、教育部長から初めて行った感想でいいので、少しお話しいただいたほうが、委員さんたちもわかりやすいかなと思います。

教育部長

教育長もおっしゃっておりますけれども、全体の空気としては、ほぼ固まりつつあるなという感じを受けました。

細部については、スクールバスであったり、部活動であったり、いろいろなこともあるわけですが、それは次の段階で解決していくことかなという感じもいたしました。

あらかじめ、これまでの会の議事録も読み込みまして統合検討委員会に臨みましたが、もっといろいろな御意見があるのかなと思っておりましたが、ほぼまとまってきたのかなという感じを正直受けました。

いずれにしても、段取りを踏んでやっていくことかなというのを感じた次第であります。

以上です。

教育長

私としては、大分、霧も晴れてきて、進むべき道が見えつつあるかなというような状況で、特に「保護者、子ども、そういう近い人の意

見を聞いてくれ」という声になっています。当初は、自治会等の人は自治会なりの意見を持っていた部分があるのですが、だんだん回を重ねるごとに、子ども、保護者、該当する人たちの意見をよく聞いて、それからアンケートも尊重してほしいということもありまして、そういうことで大体向きが決まりつつあるかなと思います。

統合の時期が今後の論点となっていくと思っています。それを何とか、9月、10月のあたりで締められるというような、私も、だんだんそれが確信になってきたかなということです。

御質問等ありましたら、お願いいたします。

横田委員 今後のスケジュールで、7月から8月にかけての伊良湖岬、泉の両地域での説明会は、これは校区が主体になってやるのですか。

教育総務課長 検討委員会が主体でと思っています。教育委員会からの案について、検討委員会でも校区の人たちの意見を聞いてまとめていくというような流れがいいかなと思っています。

横田委員 次は、7月の第5回の検討委員会ですけれども、どういう内容で考えていますか。

教育総務課長 教育委員会から、統合時期、統合先について具体的な方向性の案を示していこうと思っています。

横田委員 最後に9月で最終決定の予定となっていますが、教育委員会で決定するのは、私はいいと思うのですけれども、一般の住民にどうやって周知するかという、そこを考えておいてほしいと思います。

教育総務課長 情報の周知がすごく大事かなと思います。教育委員会で決定して、その後どのような周知をしていくか。文書を出しただけでいいのか。文書を読まない人もいる。だから、後で、おれは聞いていないと、ぶつぶつ言う人が出てくるので、例えば自治会のいろいろな会合の中などいろいろな方法で周知していくべきだと思います。

横田委員 7月に方針を決定したときでも、そういうことがあるのかなと思うのと、9月に統合先、統合時期が決定した後、4月にやった渥美地域、赤羽根地域の校区総代さんたちへの説明を要望もありましたので、9月に計画していければと思っています。

横田委員 やはり地域の方々には、先進地の野田中学校の子どもたちの様子が聞きたいと思うので、この夏休み明けでも、野田中学校の子が田原中学校へ行ってどうなのかというの情報として出ていると答えやすいのかなと思います。多分、最終決定してくると、そういうところが気になってくると思います。

教育総務課長 それも先生を通じて、多少、事あるごとに田原中学校などの情報を聞いてもらうようにはしていこうと思っています。

横田委員 それから、別件で、統廃合の計画の見直しを本年度中にして予定ですか。この児童生徒数の見込みで、亀山小がやはり一番気になります。結局、100人以下の学校を拾っていくと、六連、大草、高松、若戸、

亀山、清田で、やはり気になるのが、亀山が1クラス1桁台の規模になってくるので、ここだけがすごく気になる。今まで南部が統廃合の関係で入っていたのを、少し見直すなども必要かと思います。

教育総務課長 学校全体配置計画をつくったときすぐに、地元から呼ばれて、南部で学校を考える会をやったときにも言われておまして、そこでも、今は南部小の再編は考えない方向で行くと。

横田委員 だから、ことし中に見直しをするということにしてあるので、本年度中にまた新たに教育委員会として、どこかで広報していかないと、六連など、今言ったように100人を切っている学校は、地域の人たちの要望を聞き、地域の人が、人数が少なくなったので統合について考えほしいと言えれば考えていくという感覚でいたほうがいいのですか。

教育総務課長 そうですね。六連も、もともと自分たちでアンケートをやり、学校を考える会をやり、流れは、多くの人が統合したいという話があるのでやりましょうというところから始まっています。

横田委員 そうした中で、早めの平成31年度と載せてありますが、今は、地域としては統合を進める気はないということです。

教育総務課長 私は、次のターゲットは亀山小かなと思っています。

横田委員 これは複式学級のこともあります。

横田委員 もう一つ、赤羽根地域のことが気になっています。高松小と若戸小の地域の人たちが統合したほうがよいとなって赤羽根小学校へみんな行くと、人数的に東部小学校と同じ規模になってくる。そのぐらいの規模のほうがいいのか。

教育総務課長 どちらにしても地元からの要望にもよります。

教育総務課長 高松校区の学校を考える会で、地域としては、全く統合は考えていないような状況でした。

教育総務課長 こちらからやっていくというよりも、地元の意見を聞いていくというところですか。

金原委員 地元の意見としても、やはり統合案の見直しには、かなり賛成のようです。

横田委員 いきなり高松小、若戸小と一緒にするというのは抵抗があるみたい。

横田委員 ことし中に見直しをすると言っているのです、それでは、どういう見直しをしていくか。

教育総務課長 見直しをどのようにするかです。やめてしまうのか、年数を変えるのか、今までも地元の意見を聞いて、合意形成があった後にやると計画書でも書いてありますが、置いておいて、地元の意見を聞いてから進めるというようにするのか。

金原委員 地元の要望が来て、そこで考えるということがいいのではないかなと思います。

横田委員 堀切地域のお年寄りの話を聞きました。実際に統合となった地域からすると、今まで運動会が近づいてくると、音楽が鳴って、プラスバ

教育総務課長
横田委員

ンドの音が聞こえてきたけれども、もう全然聞こえないと。みんなスクールバスで行ってしまうから子どもの声も聞こえない。だから、何となく地域に子どもがいない雰囲気になって寂しいと。

そういう声もあります。

だから、多分、地域の人たちはなるべく残してほしいと要望していると思う。ただ、やはり子どもの数が減って、学校の運動会が本当に地域の運動会になっている。

教育部長

いずれにしても見直しをかけていかなければいけないということで、政策課題の一つになっています。

今は、現在産まれている子を数値として拾い上げて、向こう10年ぐらいでどうなるのかという形ぐらいしか見込みができないということです。やはり学校は学びの場であるということと、あわせて、おっしゃられているように、地域のコミュニティの核という側面も当然あります。学校再編そのものを、やはり、まちづくりをベースとして考えていく必要性があります。子どもたちを育てる学校というものではあるものの、一方では、そういう側面がありますから、総合計画の目標人口や、あるいは都市計画マスタープランの中の推計人口が2047年まで出ていますから、そうしたものも参考にしながら遠い将来を、二十何年後ぐらいまでをしっかりと見極めながら、そこには物理的な問題としての学校の建てかえという問題も当然出てきますので、その辺をしっかりと、どのタイミングでそういうことが出てきて、将来の地域の人口、あるいは年少人口がどういう変化をしていくのかを踏まえながら、直近のことを考えると、先ほどおっしゃられたような学校名が当然出てくるわけですが、やはり、もう少し広いスパンの中で統合のタイミングを考えていく必要もあると思っています。

それとあわせて、まちづくり、あるいはコミュニティという性格は有するものの、子どもをいかに育むのかということを見ると、本当に複式学級でいいのかという問題も当然出てきますから、そういったことも踏まえながら、皆さんの御意見も伺いながらまとめていく必要があると、そういうイメージでおります。

やはり議会でも見直しを考えていくと答弁しておりますので、まとめ方をどのようにするのかと思っています。

年度末までには何とか合意形成できればなという感じで、スケジュール感としては、そういうイメージでいます。ただ、まちづくりを進めていく中で、10年、20年、30年のスパンの中で、当然、予測と現実が乖離してくる部分も出てきますから、そういった部分については柔軟に考えていかざるを得ない事案も出てくると思いますので、計画としては、何とか見直しをかけていきたいというのが私自身の考え方でもあります。

横田委員

いろいろな施策が市にあるので、コミュニティ関係もそうだと思う

教育部長

のだけれども、それも含めて新しくつくったほうがいいのかなというようにも思います。

少子化に伴う学校再編など文部科学省からもいろいろなガイドラインが出ています。何のために再編するのかという素直な部分もやはりありますから、教育の質を向上できるというのが本来の目的のような感じも受けます。小学校の適正規模、中学校の適正規模、本当にどうなのかということではないのかなと思います。

それがまちづくりとリンクしたり、説明会の席上で、こうなってきたのも、まちづくりをしっかりとやらないからだというような意見を言われる方もお見えになりますし、そういった田原市全体のまちづくりの方向性も、総合計画であったり、方向性であるとか、あるいは、その下位計画である都市計画マスタープランの中で、例えば、では、赤羽根地域、泉地域、伊良湖岬地域、どういうまちづくりをしていくのかということでは書かれていますので、実態とどう乖離していくのかを見極める必要があるかと思います。

ただ、学校の建設には、数十億円ぐらいはかかるので、建てかえの時期も意識しながら、あとは、先ほど出ていました亀山小のようなお話では、通学区域をどうするのか、現状の行政区域でいいのかというようなことも当然出てこようかと思います。いろいろなことを少し考えてみたいなと思っています。

教育長

2年前の平成26年12月に出た学校全体配置計画のように学校数を10年間で約半減させるという計画をそのまま続けていくようにはいかないだろうなと思います。こちらとしては、学校再編を進めている中でこのままでは難しいと思っていますので、3月までに計画の見直しを皆さんにお諮りしながらやっていきたいと思っています。

特に亀山地域の場合は、1桁代の人数になってきますが、「1人になっても亀山は動かない」と校区が非常に強く、私にも直接言っています。それは話し合いの中で、1人でいいわけがないので、その辺は、また亀山地域が乗ってくるような案を示せたらと思います。また御意見を折々にいただきますので、よろしくお願いします。

意見をいろいろ聞いてやっていくことがいいかなと思います。

次回の7月13日の教育委員会、その後、総合教育会議がありますので、そこでは、市長も交えて統合先と統合時期について、教育委員会案を出す予定であります。

そこで皆さんにお諮りして、7月下旬の第4回伊良湖岬中学校統合検討委員会、第4回泉中学校再編検討委員会で、案を示していく予定です。それで、秋からは、新しい田原市の再編計画を皆さんと一緒に考えていきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

では、続きまして、田原市議会第2回定例会一般質問についての報告をお願いします。

それでは、次のページをごらんいただきたいと思います。

一般質問は、6月13日、14日とございました。初日に5番目の河邊議員まで、2日目は、6番目以降、10番目まででございました。

河邊議員から、初日の5番目に一般質問をいただいております。案件は、教師の多忙化解消について、(1)部活動について、(2)学校への教師の配置について。それから、1枚めくっていただきますと、同じく河邊議員から、小中学校へのエアコン設置について、(1)児童教師の教育環境の向上について、(2)全小中学校の普通教室に設置する経費についてという、大きく2点の質疑をいただきました。

質問の要旨は、教師の多忙化が問題になっているということで、教育委員会としてはどう見ているのか。勤務時間後の部活動の労働形態はどういう取り扱いか、また時間外勤務手当にかえて教職調整額が支給されているが、どういうもので、どういう仕事を指すのか、あるいは部活動、土日の公式試合はどうなっているのかということでした。

多忙化については、解決しなければならない重要な課題と捉えていますというお答えをさせていただいております。

部活動の労働形態について、部活動は、ある意味、先生方のボランティアという形になっています。

土曜日は部活動ですけれども、日曜日については、クラブとしての扱いという、部活動ではないという形になっています。試合があるような場合については、振りかえ等の対応をして、土曜日は休むという形をとってもらっています。

教職調整額はどのような仕事を指すのかということでもありますけれども、4%の時間外相当額が先生方に支払われているわけです。政令によって、基本は、時間外は行わないというのが大原則になっていまして、必要な場合に限って校長が命じることができる例外規定として四つあります。

これは、生徒の実習に関する業務、学校の行事に関する業務、それから職員会議、あるいは災害時等、やむを得ない場合という内容です。

在校時間については、昨年11月に調べたアンケートの中で、時間外勤務以外にどれだけの時間、在校していましたかという結果ですと、一月当たりの合計が100時間を超えた職員は、小学校では0人、中学校では14人、80時間以上から100時間未満が、小学校4人、中学校17人で、業務内容は、部活動の指導、教材研究、授業の準備等によって在校している状況になっております。

そういう状況から、河邊議員としては、部活動の休みを設けることを教育委員会が主導していくべきではないかというようなコメントがありました。部活動の在り方については、国も動いておまして、部活動に休みを設けてはというような話も来年度検討していくというようなこともありますし、ガイドラインが出てくるのではと思っています。

すので、そうしたものを見ながら、有識者を入れての委員会を設置することは、現在のところは考えておりませんが、答弁では、有効な手段であれば、研究をしてみたいというお答えをさせていただいております。

教育長

それから、先生方の在校時間が長くなっておりますので、一斉退校デーのようなものも行っておりますし、それ以外にも、教師の多忙化解消について行っておりますが、御指摘のあったことも含めて、選択教員の配置を小学校にも行ってはどうかという御意見もございました。講師の人員不足という問題もありますけれども、適切な加配を行っていきたいという回答をさせていただいております。

部活動については、県も文部科学省も、これについていろいろ調査をかけていきますし、先生の多忙化は、前々から問題になっているのに全然解決が図れないという部分についても、河邊議員から、もう少し先生をふやしたらどうだという御意見をいただきました。

横田委員

部活動については、先生だけではなくて、外部指導者をというのが今後の方向だと思うのですが、委員の皆さん、どうでしょうか。

今、全国的にすごく注目されているのが、地域部活動です。内容としては、田原の「なのはなスポーツクラブ」と一緒です。平日、午後4時ぐらいに授業が終わるので、総合体育館に集まって、バトミントン部のようなものをつくっているようなものです。ただ、都会ですので子どもがたくさん集まってきやすいですね。例えば赤羽根の人間が田原まで来て活動するのは、この地域では難しい。

教育長

そぐわないですね。

横田委員

やはり狙いが全然違っています。今、中学校では、大会に出ることを目的に学校の部活動をやっているのですが、これは入試との関係が出てくる。部活動以外の協会でやっている大会は入試とは全然関係なく、自分の力をつける。この辺の中学校でやっている部活動は、結局、推薦対象というか、東三大会で優勝したと言うと、内申書にいろいろ書かれていくので、いいイメージがあるのですけれども、そういう協会の大会は、入試とは全然関係ない。やはり地域部活動は、子どもがどれだけ全国で活躍していけるか、高校入試とは一切関係ない形が目的になっています。この辺に取り入れていくというのはなかなか無理な形。だから、学校で部活動をやるのが、この辺の地域の現状ではないかなと思います。

今は、先生や、学校を支援するためにいろいろな人たちが入っている。県や市などいろいろなところから手厚くサポートして、学校は今、運営している。

学校の中で処理しなければいけないことが多く、空き時間がないし、忙しいという気持ちはわかりますけれども、昔と比べると、どうかなという面もあります。

教育長

昔は、もっと忙しかったけれども、忙しそうにやらなかったというのか。好きな先生は、土曜日、日曜日、部活動をやっても苦にならない。ところが、中学校などで部活動が苦手な先生は、土曜日も日曜日もやらされてしまう、やらされ感もあるようです。そういう状況の中で河邊議員は、もう少し何とかならないか、教育委員会がもっと主導的な立場で多忙化を解消すべきだというお考えでした。

山本委員

先ほど教育部長が言われた、中学校が80時間以上100時間未満の残業が多い。これは、部活動は入っているのですか。

学校教育課長

部活動の時間も入っています。

部活動の時間は、正規の勤務時間としては扱っておりません。なので、土曜日、あるいは平日の授業後などにやっているのも、勤務時間終了後は、先生たちの自発的な活動というような位置づけになっております。

金原委員

勤務時間が16時45分で終わるのですけれども、それを超えて学校で仕事をしている時間が、1か月トータルでどれだけかという調査です。

例えば部活動で県大会へ行くときなどは、旅費は学校から出るのでですか。それとも、個人負担ですか。

学校教育課長

もちろん、個人の負担ではないです。

教育長

続いて、小中学校へのエアコンの設置について、お願いします。

教育部長

最近の猛暑を捉えて、熱中症対策としてもエアコンの設置が必要ではないかということでありました。平成25年度に扇風機の設置を終えておりますので、研究していきますとお答えさせていただきました。

財源は、規模によっても違いますが、全校設置すると5億円から6億円ぐらいかかりますとお答えをさせていただいています。

次に、赤尾議員から、直接的ではありませんけれども、2番目の大きい項目としてはサーフタウン構想についての質問ですけれども、その全体像の中で、サーフィンに対する浸透を図っていくため、外部の人を呼び込むだけではなくて、赤羽根小学校がやっているボディボード教室のように、やはり内部からそういうことをやっていくべきではないのかという質問がありまして、企画部長としては、そういうことに限らず、サーフィン教室のようなことを考えていきますとお答えをしております。

それから、森下田嘉治議員から、田原市における給食の現状について、今年の2月に給食センターが小学5年生と中学2年生を対象に行ったアンケート結果を踏まえての現状と課題、それから栄養教諭、アレルギー対策、地元の食材と食育、それから和食のよさが活かされているのか、米飯給食と牛乳について質問がありました。森下議員は、給食センターの状況を知らない人もいるから、PRも含めて一般質問をすることでありました。米飯給食が1週間のうち4回ほど出ますけれども、その和食のよさのためにも、牛乳ではなくてお茶のほう

教育長

がいいのではないかと質問でございまして、それについては、望ましい食習慣ということと言われていたわけですが、物理的な問題、あるいは学校の時間的な制約がありますので、現時点としては困難だということでお答えをさせていただきました。

それから、最後の辻議員は、若者の政策形成過程への参画について、若者の投票行動を促す取り組みと主権者教育の推進について、教育長から答弁をさせていただいております。

小学校、中学校においては、授業、あるいは児童会、生徒会などで、役員選挙等を通して投票に関する理解を深めているけれども、やはり主権者教育に若いうちから取り組むべきではないのかというような話でありますので、それは子どもたちの理解にも混乱を来すようなことにもなりかねないので、成長段階での指導、ふるさと学習を通しながら、将来、選挙を行う人、あるいは、この田原市を担う自覚を芽生えさせることが大事ではないのかという答弁でございました。田原市民として主体的にかかわっていく子どもたちを育て上げるために力を注ぎますというような答弁でございました。

後半で、何か御質問等ありますか。

ありがとうございました。以上で、一般質問について終えたいと思います。

そのほかでいかがでしょうか。

本日の議事等は全て終了いたしました。御協力ありがとうございました。

これをもちまして、田原市教育委員会第6回定例会を閉会とさせていただきます。お疲れさまでした。

閉 会 午前11時35分